

日本予防理学療法学会 COVID-19 関連エビデンス
海外情報

No.10

調査者	澤龍一
情報ソースの刊行日	2020年4月22日
情報ソースの調査日	2020年5月4日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月5日
日本語タイトル	COVID19 流行のその後：高齢者における次の健康課題
情報ソース	The Journals of Gerontology: Series A
情報のカテゴリー	
発信地域	アメリカ
DOI	https://doi.org/10.1093/gerona/glaa102
URL	https://academic.oup.com/biomedgerontology/advance-article/doi/10.1093/gerona/glaa102/5823256
要約	<ul style="list-style-type: none"> ● COVID19 に対する現状の対応として実施されているロックダウンは、高齢者が日常的に受けているサービス（医療ケアやスクリーニングなど）を止め、またソーシャル・ディスタンスは外出抑制につながっているだろう。しかし一方で先の見えない上記の公衆衛生的介入が続くことによる高齢者の健康への弊害もある。それは以下の4点。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動量の低下（不活動時間の増加） 2. ストレスレベルの上昇 3. 栄養課題 4. ヘルスケアや在宅ケアサービスへのアクセス制限 ● 上記の課題を解決する手段として、遠隔医療は有用なツールの一つだが、すべての高齢患者が順応出来ることはない。医療提供者はこれと同時に、直接患者と対面できないことの長期的な影響が潜在することも認識しておく必要がある。 ● 遠隔医療やウェアラブルテクノロジーによる遠隔管理が COVID19 の慢性疾患に対する影響を研究する上で有用であるだろう。 ● ソーシャル・ディスタンスが高齢者に引き起こす悪影響への理解に遠隔医療やウェアラブルテクノロジーが有用となる。
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	<ul style="list-style-type: none"> ● ソーシャル・ディスタンスによる悪影響への理解は、外来を控えている高齢患者のリスク理解につながり、ひいてはその患者への対応方針を考える一つのアイデアとなると考える。